



戦後七十年特別企画 前進座公演

死線をさまよう兵士たち、
生きる希望は…芝居！
命がけて芝居を創り、
命がけて芝居を見た、
嘘のような本当の話――

絵
スタジオジブリ
近藤勝也

南の島に雪が降る

加東大介 〓 原作

瀬戸口郁 〓 脚本

西川信廣 〓 演出

加藤武 〓 協力

全日本年金者組合の皆さまへ

初春南座公演・5月国立劇場公演のお取り組みをはじめ、日頃より温かいお力添えを賜り、深く御礼申し上げます。
また、本年は戦後70年特別企画『南の島に雪が降る』公演に、全国各地の県本部様のご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。日本がふたたび戦争ができる国にしようという動きを、何としても阻止し、すべての平和を願う人々の想いを結集させる舞台として、『南の島に雪が降る』を精一杯相勤めますれば、何とぞ公演成功にお導きいただけますよう、伏してお願い申し上げます。

2015年6月17日

南の島に雪が降る

戦後70年。あの戦争の記憶がだんだんと風化し、今また、この国の平和な未来に不安を覚えるような、きな臭いニュースが聞こえてきます。いったいこの国はどこに向かっているのか。戦後70年にあたり、戦争のむごさ、人の命の尊さ、そして演劇や音楽など文化芸術が絶望の淵にある人々に何ができるのかを今一度見つめ直したい――そんな想いを込めた特別企画『南の島に雪が降る』は、戦前、前進座の俳優として活躍された加東大介さんが、過酷な西部ニューギニアで実際に体験された、悲しくも可笑しい、地獄に灯った一筋のあかりの物語です。

【ものがたり】

昭和18年、大阪中座の舞台に出演中の前進座俳優・市川筵司(後の加東大介)のもとに、召集令状が届く。再び舞台には立てないかもしれない、そんな覚悟で向かった先は戦況厳しい西部ニューギニアのマノクワリ。本土からの食糧も尽き、マラリアなど疫病でばたばたと仲間の兵隊たちが亡くなっていく日々……。ところが、そのマノクワリでは、彼の舞台を知る演劇評論家・長唄の三味線弾き・スペイン舞踊の教師・脚本家・カツラ屋・友禅職人・喜劇俳優といった面々との奇跡的な出会いが待っていた。やがて、彼を中心に演芸分隊が立ち上げられる。何もないところから、涙ぐましい努力と工夫で、衣裳や髪や小道具が作られる。そしてなんとマノクワリ歌舞伎座という劇場までもが建てられ、懐かしい故郷の風景や、若い兵隊扮する女性の白い肌に母や女房を想い出しては熱狂する、死と隣り合わせの兵隊たちが、毎日押し寄せて……



写真提供：東宝

加東大介

俳優 本名、加藤徳之助 明治44年浅草生まれ
沢村国太郎、沢村貞子の弟。東京府立七中を経て、昭和4年に二代目市川左団次の門に入り、市川筵司(いちかわえんし)を名乗る。昭和8年前進座に入座。18年、衛生伍長として応召。21年に復員。戦後は『七人の侍』『羅生門』など舞台、映画、テレビで活躍した。1952、1955年と2度のブルーリボン助演男優賞受賞。昭和50年没。

瀬戸口郁 脚本
西川信廣 演出
加藤武 協力
佐藤琢人 装置
桜井真澄 照明
上田亨 音楽



松浦海之介 本村祐樹 忠村臣弥 新村宗二郎 上滝啓太郎 早瀬栄之丞 中嶋宏太郎 嵐芳三郎 松涛喜八郎 姉川新之輔 益城宏 山崎辰三郎 藤川矢之輔

前進座の

『南の島に雪が降る』に期待する

高畑 勲(アニメーション映画監督)



加東大介さんの原作『南の島に雪が降る』は、一読驚嘆せざるを得ない本です。戦わずして大量の餓死者を出した、悲惨極まりない西部ニューギニア戦

線。いつ敵が襲ってくるかもしれない、極度の緊張を常に強いられ、飢えと病に苦しみ、次々と死んでいく兵士。そんな彼らの心を癒し、支え、晴らしてくれるものとして、演芸やお芝居というものがどんなに大きな存在足りえたのか。役者だけでなく、化粧・衣裳・舞台装置・照明などに発揮された演芸分隊員たちの職人根性、打ち込みようがどれほどスゴイものだったのか。米国の強制収容所内などで発揮された驚くべき芸術行為などとともに、日本人論には欠かせない基礎文献のひとつでしょう。

このたび『南の島に雪が降る』が加東さんの出発点だった前進座によって演じられると聞き、大いなる期待とともにいささかの不安が私の胸をよぎりました。それは、この作品が面白すぎるからです。劇中で心打つエピソードが繰り広げられ、悲しみや笑いがあふれ、ヒューマニズムが示されれば示されるほど、戦下でもこんなにも人間はいとおしく、悲しくも美しいのだ、という心地よい感動ドラマに終わってしまいかねない。それがいかなる極限状態で行われているのか、日本軍が行った戦争が、自軍の兵士に対してさえ、いかに残酷非道なものであったのか、芝居に熱中し笑っている兵士一人一人が、日頃いかに厳しい生活を強いられているのか、それこそがひしひしと若い観客に伝わらなければ、今この名作を取り上げる意味はないのではないか。

前進座ならば、そこをしっかりと感じさせてくれるにちがいないと思います、大いに期待しているところです。

※6月13日現在の開催予定

7月										8月				10月								11月	
16 木	17 金	18 土	20 月	21 火	22 水	23 木	28 火	29 水	31 金	2 日	10 月	15 木	19 月	20 火	21 水	22 木	25 日	26 月	28 水	29 木	30 金	3 火	4 水
滋賀（大津）	兵庫（神戸）	大阪	京都	広島	愛知（名古屋）	和歌山	高知	愛媛（松山）	佐賀	熊本（宇土）	東京（三越劇場）	秋田	三重（松阪）	静岡（清水）	長野	（松本）	山形	山梨	福島	千葉	群馬（前橋）	埼玉	茨城（ひたちなか）

左表の10月以降については、まだ開催を検討中の県もございますので、ご了承くださいませ。また、全国のすべての年金者組合のお一人でも多くの方にご覧いただければと願っております。開催県でない県本部におかれましては、近隣の開催地にぜひご協力いただけますよう、心よりお願い申し上げます。